



Think Big!

休む権利を行使できる健全な職場を目指す緊急声明

中野北乗務ユニットの要員不足は昨年末から始まり、今年に入りさらに深刻度を増し、休日出勤の要請に対して、社員と管理者のコミュニケーション不足やある管理者の「来月は年休を申し込んでも入らないから申し込まないでね」との発言もあり、職場内は一般社員も管理者も要員不足が原因で体力的だけでなく、精神的な疲労も蓄積しています。これでは、安全・輸送に支障しかねない危機的な状況です。また、サービス品質の低下も否定できない状況です。安心して休むことが出来ない現状は、会社がつくりだしていると言っても過言ではありません。

そしてここ数か月、勤務作成の方法を変えたのか?(変えさせられたのか?)分かりませんが、顕著に現れた2月の年休の申し込みに対して、2月2日現在、38名62件(分会調べ)と安易に時季変更の行使(年休入れない)を行う姿勢に変えてきています。中野北乗務ユニットで乗務する多くの組合員・社員の皆さんより憤りの声が、連日分会に届いています。しかし、この間の団体交渉では、私たち労働組合が要員不足を訴えると、決まり文句のように「必要な要員は確保しています」と会社側は回答します。現場では誰もが肌で感じる要員不足だという声に会社側は向き合おうとはしません。

そもそも中野北乗務ユニットが担当する乗務線区は、日常的な臨時列車の担当がない繁忙期・閑散期の無い職場で、毎日一定の出面数であり、これだけの時季変更権の行使が行われるという事は、会社側が自ら著しい要員不足を認めているに等しいです。

この要員不足は中野北乗務ユニットに限らず全社的な問題ですが、著しい要員不足はどうしてつくられたのでしょうか?ジョブローテーション(10年同じ担務を担わせない・駅から直接運転士)や組織の再編(統括センター化)、兼務、ワンマン運転等の様々な施策が進められるが、どれも現場第一からかけ離れた施策が進み、安全で安定した輸送業務より不動産業・駅ナカ事業重視などの会社施策によって社員が安心して働けない、魅力を感じない会社となり、選ばれない会社・見切りをつけたい会社に会社経営陣がつくりあげてしまったと言っても過言ではありません。

今年の4月からは「仕事と育児・介護の両立、柔軟な働き方等のさらなる推進について」の施策では、短時間勤務が3歳から小学校6年生まで、育児支援休暇の新設、保存休暇取得要件の見直し等が実施予定ですが、希望する社員が容易に取得出来るためには、会社が責任をもって3月末までに要員を整えない限り、施策は机上の空論となります。

組合員・未加入の皆さんに訴えます!

私たちは、危機的な要員不足に正面から向き合い、要員不足の解消と不安の無い明るく魅力ある職場づくりに向けて運動を強化していきます。

年休の時季変更権が職場で続出し、多くの社員が「不安、憤り、要員状況」を、分会組合員へ声を寄せる。統括センター施策で会社が言う「社員の活躍のフィールドづくり」を実感しない職場の環境である。分会は緊急声明を発出し、議論を深めていく。